

全国学力学習状況調査の分析

国語の成果と課題について

【成果】

A: 「思考力、判断力、表現力等（読むこと）」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができています。

B: 「知識・技能（情報の扱い方に関する事項）」において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができています。

【課題】

A: 「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことに課題があります。

→目的や条件に応じて文章を書くことに苦手意識を抱いている児童が多くいることが予想されます。目的や条件に応じて文章を書きまとめる力や、事実と感想、意見の区別についての理解や引用を用いた表現方法をより高めるために、定型文等をもとに書き慣れることを大切にしていきます。

【目的や条件の例】

★意見文（提案）

①自分の立場を決める。 ②理由を文章（新聞）から引用し、根拠を明確にする。

★推薦文（提案）

①物語を要約し、その物語のすばらしさを述べる。 ②理由を文章（新聞）から引用し、根拠を明確にする。

★意見文（感想）

①自分の感想を述べる。②理由を文章（新聞）から引用し、根拠を明確にする。

B: 「知識・技能（言葉の特徴や使い方に関する事項）」において、学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことに課題があります。

→新出漢字の学習の際は、意味調べやその活用例（例文）についての学習活動を設けたり、学習した漢字は使い書き表したりすることを大切に、新出漢字や既習漢字の定着を目指していきます。

C: 【思考・判断・表現】において、「読むこと」と「話すこと・聞くこと」に課題があります。

→「読むこと」では、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。「話すこと・聞くこと」では、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉える力に課題があります。文章のまとまり（始・中・終）を意識し、文章の全体像や場面設定を理解して文章を読み進めることに焦点をあてていきます。

D：文章の記述問題において無解答率が高いです。文章の読み取り、設問の理解等に時間が多くかかった、もしくは、問題が難しく解答することができなかったことが予想されます。

→児童質問紙において、多くの児童が書く問題等に対して、粘り強く取り組んだと回答していました。また、問題解答時間は足りたと回答する児童が約半数いました。文章を書く問題の正答率の低さから考えると、目的や条件に応じて文章を書く経験を定型文等を通して経験させ、書くことに慣れる学習活動を設けていきます。

算数の成果と課題について

【成果】

A：「図形（知識・技能） 図形（思考・判断・表現）」の領域について、直方体の見取図や展開図の作図、円周の長さの求め方、多角形の底面や側面の数について理解ができています。

B：「数と計算（知識・技能）」の領域について、数量関係を□を用いた式の意味を理解し、正確に計算することができています。

【課題】

A：「図形（思考・判断・表現）」の領域について、球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題があります

→立方体と直方体の体積の求め方やその定義（縦・横・高さ・容積）、円の定義（直角・平行・等しい角・等しい辺・内角の和・半径・直径・中心）について、整理・理解できるようにする必要性がありました。立体を構成する要素をより深く理解できるように図形遊びや容積比較等の学習活動を設けていきます。

B：「変化と関係（思考・判断・表現）」の領域において、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題があります。

→「速さ」「道のり」「時間」の求め方やその速さの定義（秒速・分速・時速）、距離の定義（道のり・距離）を結び付けて問題を解く力に課題がありました。より理解を深めることができるよう、児童の発達段階に応じた実生活の場面での問題を設定し、それらの求め方や定義を活用できるようにしていきます。

C：「データの活用（知識・技能）」の領域において、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述することに課題があります。

D：「データの活用（知識・技能）」の領域において、示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断することに課題があります。

→課題C・Dでは、「棒グラフ」・「折れ線グラフ」「帯・円グラフ」の見方（変化の様子）やデータから考察する力に課題がありました。身近な算数的事象を取り上げ、それらの各グラフに表す学習活動を通して、データから読み取ったことと事象との整合性をふまえながら考察する学習活動を設けていきます。

児童質問について

【全体を通して】

本校は例年「友だち関係に満足している」「学習中の友だちとの意見交換が楽しい」と回答する児童が多くいますが、今年度もそう回答する児童が多く、安心して学習することができる環境が学校全体で整っていると考えられます。これからも学力の基盤を支えている要因としての「学校での基本的な生活習慣・学習習慣」と「家庭での家庭学習」の確立と習慣化に加え、「自分で学習を調整する力」の向上や「ICT 機器の活用」についても全学年で取り組んでいく必要があることが児童質問紙から分かりました。

【良いところ】

- ・「友達関係に満足している」と回答した割合は、全国や県平均と比較すると上回っており、本校の短学級編制による児童の人間関係の安定が見られました。引き続き、本校の単学級編制の特色を活用した学習・生活を基盤に学力や豊かな人間性の向上に努めていきます。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけない」など多くの児童が当てはまると回答し、高い規範意識が見られました。今後も年2回のいじめアンケートの実施や、児童の事態に応じた道徳教育の推進に努めていきます。
- ・「人が困っている時は進んで助ける」と回答した割合は、全国・県平均と比較すると上回っていました。共感的人間関係を基盤に今後もより児童同士の信頼関係深めることができるように努めていきます。

【課題】

- ・「毎朝、朝食を食べていますか？」の質問項目では、「していない」・「どちらかというとしていない」と回答した割合が全国や県平均と比較すると上回っていました。学力を支える素地のために、ご家庭での「バランスのとれた朝食」と「規則正しい睡眠時間」についてご協力をお願いします。
- ・国語や算数を学習することが好きと回答した割合が全国や県平均と比較すると下回っていました。学校でも学ぶことの楽しさを伝えていきます。ご家庭でも家庭学習等の取り組みを見ていただき、励ましの声かけをよろしくお願いします。
- ・家庭で ICT 機器（タブレット）を学習に利用している時間を調査する項目では、本校の活用時間が比較的短いことが分かりました。家庭学習のために ICT 機器（タブレット）を利用する時間が有意義なものとなる活用方法を、今後も学校や家庭の協力のもと実践していきます。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校の大人にいつでも相談できますか」の質問項目では、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答した割合が3割程いることが分かりました。学校全体で教育相談の体制をより一層充実させていきます。